

## 学生の皆さんへ

ITエンジニアとして働きながら感じるのは、「コンピュータの特性を理解し、うまく対話すること」がシステムをつくる上で大切だということです。

コンピュータとの対話という点、「プログラミング言語を学ぶこと」を真つ先に想像するかもしれませんが、それは二の次でよいと思います。コンピュータは大変賢いですが、

人間の伝え方（入力）が少しでもあいまいだと、そつぽを向いてしまったり突拍子のない返事をしてきたりします。

まずは物事を論理的に考え、誤解のない伝え方を組み立てる必要があるし、それができていればドンピシャのプログラムを書くことができるでしょう。

私の場合は、受験勉強、特に英語と国語の学習の中で得た考え方や習慣が、大きく生かされていると考えています。

「受験勉強は、社会では何の役にも立たない」——

進路によってはその通りかもしれませんが、

ただ、学生時代の勉強の中で鍛錬される思考力は、大学でも社会でも、皆さんを大いに助けてくれるし、

ステップアップするための踏切板になってくれると思います。苦手分野で壁にぶつかっても、

考え方を磨くのだと前向きに捉え、励んでほしいと思います。

大学を卒業後「手に職をつけて働きつつ、社会のインフラを陰で支える仕事がしたい」と思い、2018年に金融系のシステム開発を主力とするIT企業に就職。

現在はシステムエンジニアとして保険代理店向けシステムの導入に携わっています。

保険や代理店の仕事についての知識がないと、お客様の困っていること、解決したいことを汲み取ることができませんし、信頼関係もなかなか構築できません。また、知識を身に着けてお客様の「やりたいこと」を聞き取ることができても、今度は何の技術を使い、どのような設計をするかを判断できないと、システムをつくることができません。

保険とIT、両方を日々コツコツと勉強しながら鋭意努力しています。

### 「学志舎での思い出」

学志舎との出会いは小5の時でした。最終大学受験までお世話になりました。高3の大晦日、翌年に受験する同学年の有志とともに学志舎に集合して、年越し勉強会を勝手に敢行。戦友とともに新年を迎えて士気を高めた後、残すは神頼みだということで、みんなで伊奈波神社に初詣に行ったことが、印象深い思い出です。マンツーマンをご担当いただいた松元コーチには、英数の記述対策をみっちりと教えていただきました。高3では生徒会長を務め、学校祭間近には2週間も塾に行かず学校祭成功の為に奔走し、指導を何度かスキップしてもらうなど、多大なご迷惑をおかけしました。にもかかわらず、勉学も学校生活も同じくらい応援していただいたおかげで、その後思いきり受験勉強に打ち込むことができました。



新年、仲間と共に合格を誓う

## 「卒塾生 学志舎で語る」 vol.8

卒塾生 川村 紘太郎 大阪大学 人間科学部卒

## 力を何%出せたのか？ 自分で採点する。

点数よりも、大切なものだと教えています。

学志舎では教師のことを「先生」ではなく「コーチ」と呼びます。「コーチ (coach)」とは「馬車」の意。ひいては「大切な人を、その目的地まで送り届ける」という意となります。



川村君と松元コーチ

紘太郎君は、中途半端なことはせず決めたことは最後まで貫き通す子でした。彼は高校では生徒会長として活動していましたが、文化祭の準備に集中するために受験勉強を一旦休憩したいということもありました。大事な時期にどうすることが彼のためになるのか迷いましたが、彼なら文化祭後にその集中力を受験勉強に向けられると信じました。結果、大学受験の合格を勝ち取ることができました。紘太郎君は、意志の強さの大切さを身を持って教えてくれました。今は、さらに素敵な人になっていることだと思います。今後のご活躍を期待しています。

担当コーチ 松元宗一郎 (現在 救急専門医)



# 学志舎

智をつけよ そして人の為に活かせ



築100年の古民家



1F 小中学生教室



2F 高校教室

〒500-8085 岐阜市白木町92番地  
【お問い合わせ】平日10:00～21:00

☎ 058-265-4562



<https://gakushisha.com/>

学志舎

検索



私は学力(学ぶ力)とは素質×時間×環境だと思っています。中でも学力形成に大きな要因となる「素質」についてお話しします。皆、生まれ持った素質は同じではありません。例えば、足が速い子もいればそうでない子もいる。絵が上手な子がいれば、苦手な子もいる。カラオケへ行けば、ほれほれする歌を歌う子もいれば、こいつにマイクを持たすな(笑)と思う子もいる。

日本人は、どう頑張ってもウサイン・ボルトには勝てません。9.58秒は未来永劫敵わない記録でしょう。それは黒人と黄色人種の筋肉の質(遅筋・速筋)にあります。これはどうしようもない事実です。そしてこれは学習の面でもいえることです。

これからの話はこれを認めたくえでの話です。それを誤魔化したり、隠したりすると、かつての「みな平等、運動会のかけっこ」になってしまいます。

大切なのはここからです。「素質がないから勉強するのは無駄」なのかどうかということ。ボルトは、オリンピックでいくつもの金メダルを取ったヒーローです。

世界中の人々を感動させました。彼は確かに恵まれた素質を持って生まれました。では、人々は彼の素質に感動し、拍手を送ったのでしょうか。それは違います。私たちは彼の100m、10秒に満たない走りの中に「それ」見えています。

「それ」とは何か?100分の1秒を縮めるために行ってきた血の滲むような努力、決して真似のできない厳しい鍛錬です。もちろん、それを実際に見たわけではないのですが、彼の圧倒的な走りの向こうにそれを感じ取ることができるのです。

スケートの羽生選手に感動するのも、柔道の阿部兄妹に感動するのも同じです。「感動」の源泉はここにあるのです。例えば身長が3メートルのバスケットボール選手がいたとしましょう。彼にボールが渡れば敵はなすべがない。

ゴール下に立ってパスをもらえばすべて得点。チームは連戦連勝……。あなたは、こんな試合に感動しますか? 何度も見たいと思いますか? 背が高いというのは紛れもなく「素質」です。しかし、素質だけで人を感動させ、心を揺さぶる力はありません。

くどいようですが我々は、その背後にある「努力・鍛錬」に感動するのです。時としてレベルの高いプロ野球よりも高校野球に感動することがあるのも同じ理由です。高校野球のほうが、「それ」が感じやすい、または見えやすいのです。

学問においても理屈は同じです。取った点数に人は「感心」こそすれ「感動」はしません。その過程に価値があるのです。5科目350点の素質の子がとった350点に私は心を打たれますが、450点の素質の子が取った420点には「どうすれば君の力を100%出せるようになるのだろうか?」と問いかけてしまいます。もって生まれた素質を、自分の責任の範囲を、どれだけ全うできるか?それが大切なのです。例えば、学校で自分の素質を鼻にかけて全力でやらずとも結構な点を取る生徒がいたとしましょう。かたわら、その子に勝つには素質で負けているから時間をかけて頑張る生徒がいる。また職場でも同様に鼻にかけている人、傍らで汗をかいて一生懸命に努力をしている人がいたとしましょう。あなたならどちらの人を応援したくなりますか?

私は変わりますが、「素質は誰にも分からない」ということも指摘しなければなりません。最終それは神のみぞ知る世界なのです。もちろん我々は学習面で、この子が頑張れば5科目で〇〇〇点まではいけると、予想ができます。しかし、思わぬ予想外が結構あるのです。400点まではいけると思った子が450点を突き抜けるとか。(幸いにも逆はこれまでありません)

例えば、岐阜市民ならば誰でも知っているQちゃんこと高橋尚子さん。彼女は高校2年時にインターハイに出場します。しかし予選で敗退。また、47都道府県対抗女子駅伝にも出場します。ところが走った区間での成績は47人中なんとビリから3番目。こんな選手が後に、オリンピックの舞台上で世界の頂点に立つと誰が予想したでしょうか?誰もいなかったと思います。もちろん小出監督という名コーチの下で、過酷な練習を積んできました。

シドニー五輪の前にTVで高橋選手の特集を見ました。アメリカの空気の薄い高地で心肺機能を高めるべく練習に打ち込む師弟の姿がありました。「Qちゃんいいね!Qちゃんそれだ!」そして練習後、シューズを脱いだ高橋選手の足の裏をカメラは映しました。ひび割れ、ところどころから汁がジュクジュクと…我々の感覚ではとても走れる状態ではありません。それでも彼女は計画を粛々とこなしていたのです。私はシドニーのあのマラソンのレースを見ていて、途中でサングラスを投げてギアを一段上げにかかった時、「Qちゃんかっこいい!」と思いました。そして一度は引き離したシモン選手に最後は追い上げられながら逃げ切って、両手を上げてテープを切った瞬間、鳥肌が立ちました。これまでにない感動を覚えました。

大切なことは、生まれ持った素質をどれだけ出せるかということ。ご先祖から脈々と受け継いできた素質を。そして大人がやるべきことは、その環境を作ることだと思っています。小出監督は金沢の講演会でこう言いました。「指導者の仕事は、選手がどれだけ目をキラキラ輝かせることができるか?そして講演の後の「なぜ褒められるのが上手なのか?」という質問に対して「私は小さいころから親に褒められた記憶しかありません。だから自然とできるんじゃないですか」もって生まれた自分の素質の守備範囲を確実にこなすには大人のかかわり方が大きく影響するということです。よいところだけを見て、それを言ってあげる。それによって子供たちは委縮することなく、大人の目を気にすることなくのびのびと大きく育つことでしょう。前をしっかり見つめ、何事にも挑戦できる人となることでしょう。

「〇〇いいね!」「〇〇すごいぞ!」「〇〇もう少しだ!」「〇〇できたね!」「〇〇大丈夫!」「〇〇うれしい!」「〇〇ありがとう!」「〇〇大好き!」最後に、私は生徒に「自分の力を100%出したときに何点取れると思う?」という質問をします。そしてその答えた得点を生徒が超えた時、これまでに一人の例外なく発した言葉があります。それは

「**塾長、まだまだいける気がする!**」

あなたもきっと突き抜けることができる! 塾長 山田 勝登

私は変わりますが、「素質は誰にも分からない」ということも指摘しなければなりません。最終それは神のみぞ知る世界なのです。もちろん我々は学習面で、この子が頑張れば5科目で〇〇〇点まではいけると、予想ができます。しかし、思わぬ予想外が結構あるのです。400点まではいけると思った子が450点を突き抜けるとか。(幸いにも逆はこれまでありません)

例えば、岐阜市民ならば誰でも知っているQちゃんこと高橋尚子さん。彼女は高校2年時にインターハイに出場します。しかし予選で敗退。また、47都道府県対抗女子駅伝にも出場します。ところが走った区間での成績は47人中なんとビリから3番目。こんな選手が後に、オリンピックの舞台上で世界の頂点に立つと誰が予想したでしょうか?誰もいなかったと思います。もちろん小出監督という名コーチの下で、過酷な練習を積んできました。

シドニー五輪の前にTVで高橋選手の特集を見ました。アメリカの空気の薄い高地で心肺機能を高めるべく練習に打ち込む師弟の姿がありました。「Qちゃんいいね!Qちゃんそれだ!」そして練習後、シューズを脱いだ高橋選手の足の裏をカメラは映しました。ひび割れ、ところどころから汁がジュクジュクと…我々の感覚ではとても走れる状態ではありません。それでも彼女は計画を粛々とこなしていたのです。私はシドニーのあのマラソンのレースを見ていて、途中でサングラスを投げてギアを一段上げにかかった時、「Qちゃんかっこいい!」と思いました。そして一度は引き離したシモン選手に最後は追い上げられながら逃げ切って、両手を上げてテープを切った瞬間、鳥肌が立ちました。これまでにない感動を覚えました。

大切なことは、生まれ持った素質をどれだけ出せるかということ。ご先祖から脈々と受け継いできた素質を。そして大人がやるべきことは、その環境を作ることだと思っています。小出監督は金沢の講演会でこう言いました。「指導者の仕事は、選手がどれだけ目をキラキラ輝かせることができるか?そして講演の後の「なぜ褒められるのが上手なのか?」という質問に対して「私は小さいころから親に褒められた記憶しかありません。だから自然とできるんじゃないですか」もって生まれた自分の素質の守備範囲を確実にこなすには大人のかかわり方が大きく影響するということです。よいところだけを見て、それを言ってあげる。それによって子供たちは委縮することなく、大人の目を気にすることなくのびのびと大きく育つことでしょう。前をしっかり見つめ、何事にも挑戦できる人となることでしょう。

「〇〇いいね!」「〇〇すごいぞ!」「〇〇もう少しだ!」「〇〇できたね!」「〇〇大丈夫!」「〇〇うれしい!」「〇〇ありがとう!」「〇〇大好き!」最後に、私は生徒に「自分の力を100%出したときに何点取れると思う?」という質問をします。そしてその答えた得点を生徒が超えた時、これまでに一人の例外なく発した言葉があります。それは

「**塾長、まだまだいける気がする!**」

あなたもきっと突き抜けることができる! 塾長 山田 勝登

私は変わりますが、「素質は誰にも分からない」ということも指摘しなければなりません。最終それは神のみぞ知る世界なのです。もちろん我々は学習面で、この子が頑張れば5科目で〇〇〇点まではいけると、予想ができます。しかし、思わぬ予想外が結構あるのです。400点まではいけると思った子が450点を突き抜けるとか。(幸いにも逆はこれまでありません)

例えば、岐阜市民ならば誰でも知っているQちゃんこと高橋尚子さん。彼女は高校2年時にインターハイに出場します。しかし予選で敗退。また、47都道府県対抗女子駅伝にも出場します。ところが走った区間での成績は47人中なんとビリから3番目。こんな選手が後に、オリンピックの舞台上で世界の頂点に立つと誰が予想したでしょうか?誰もいなかったと思います。もちろん小出監督という名コーチの下で、過酷な練習を積んできました。

シドニー五輪の前にTVで高橋選手の特集を見ました。アメリカの空気の薄い高地で心肺機能を高めるべく練習に打ち込む師弟の姿がありました。「Qちゃんいいね!Qちゃんそれだ!」そして練習後、シューズを脱いだ高橋選手の足の裏をカメラは映しました。ひび割れ、ところどころから汁がジュクジュクと…我々の感覚ではとても走れる状態ではありません。それでも彼女は計画を粛々とこなしていたのです。私はシドニーのあのマラソンのレースを見ていて、途中でサングラスを投げてギアを一段上げにかかった時、「Qちゃんかっこいい!」と思いました。そして一度は引き離したシモン選手に最後は追い上げられながら逃げ切って、両手を上げてテープを切った瞬間、鳥肌が立ちました。これまでにない感動を覚えました。

大切なことは、生まれ持った素質をどれだけ出せるかということ。ご先祖から脈々と受け継いできた素質を。そして大人がやるべきことは、その環境を作ることだと思っています。小出監督は金沢の講演会でこう言いました。「指導者の仕事は、選手がどれだけ目をキラキラ輝かせることができるか?そして講演の後の「なぜ褒められるのが上手なのか?」という質問に対して「私は小さいころから親に褒められた記憶しかありません。だから自然とできるんじゃないですか」もって生まれた自分の素質の守備範囲を確実にこなすには大人のかかわり方が大きく影響するということです。よいところだけを見て、それを言ってあげる。それによって子供たちは委縮することなく、大人の目を気にすることなくのびのびと大きく育つことでしょう。前をしっかり見つめ、何事にも挑戦できる人となることでしょう。

「〇〇いいね!」「〇〇すごいぞ!」「〇〇もう少しだ!」「〇〇できたね!」「〇〇大丈夫!」「〇〇うれしい!」「〇〇ありがとう!」「〇〇大好き!」最後に、私は生徒に「自分の力を100%出したときに何点取れると思う?」という質問をします。そしてその答えた得点を生徒が超えた時、これまでに一人の例外なく発した言葉があります。それは

「**塾長、まだまだいける気がする!**」

あなたもきっと突き抜けることができる! 塾長 山田 勝登

私は変わりますが、「素質は誰にも分からない」ということも指摘しなければなりません。最終それは神のみぞ知る世界なのです。もちろん我々は学習面で、この子が頑張れば5科目で〇〇〇点まではいけると、予想ができます。しかし、思わぬ予想外が結構あるのです。400点まではいけると思った子が450点を突き抜けるとか。(幸いにも逆はこれまでありません)

例えば、岐阜市民ならば誰でも知っているQちゃんこと高橋尚子さん。彼女は高校2年時にインターハイに出場します。しかし予選で敗退。また、47都道府県対抗女子駅伝にも出場します。ところが走った区間での成績は47人中なんとビリから3番目。こんな選手が後に、オリンピックの舞台上で世界の頂点に立つと誰が予想したでしょうか?誰もいなかったと思います。もちろん小出監督という名コーチの下で、過酷な練習を積んできました。

シドニー五輪の前にTVで高橋選手の特集を見ました。アメリカの空気の薄い高地で心肺機能を高めるべく練習に打ち込む師弟の姿がありました。「Qちゃんいいね!Qちゃんそれだ!」そして練習後、シューズを脱いだ高橋選手の足の裏をカメラは映しました。ひび割れ、ところどころから汁がジュクジュクと…我々の感覚ではとても走れる状態ではありません。それでも彼女は計画を粛々とこなしていたのです。私はシドニーのあのマラソンのレースを見ていて、途中でサングラスを投げてギアを一段上げにかかった時、「Qちゃんかっこいい!」と思いました。そして一度は引き離したシモン選手に最後は追い上げられながら逃げ切って、両手を上げてテープを切った瞬間、鳥肌が立ちました。これまでにない感動を覚えました。

大切なことは、生まれ持った素質をどれだけ出せるかということ。ご先祖から脈々と受け継いできた素質を。そして大人がやるべきことは、その環境を作ることだと思っています。小出監督は金沢の講演会でこう言いました。「指導者の仕事は、選手がどれだけ目をキラキラ輝かせることができるか?そして講演の後の「なぜ褒められるのが上手なのか?」という質問に対して「私は小さいころから親に褒められた記憶しかありません。だから自然とできるんじゃないですか」もって生まれた自分の素質の守備範囲を確実にこなすには大人のかかわり方が大きく影響するということです。よいところだけを見て、それを言ってあげる。それによって子供たちは委縮することなく、大人の目を気にすることなくのびのびと大きく育つことでしょう。前をしっかり見つめ、何事にも挑戦できる人となることでしょう。

「〇〇いいね!」「〇〇すごいぞ!」「〇〇もう少しだ!」「〇〇できたね!」「〇〇大丈夫!」「〇〇うれしい!」「〇〇ありがとう!」「〇〇大好き!」最後に、私は生徒に「自分の力を100%出したときに何点取れると思う?」という質問をします。そしてその答えた得点を生徒が超えた時、これまでに一人の例外なく発した言葉があります。それは

「**塾長、まだまだいける気がする!**」

あなたもきっと突き抜けることができる! 塾長 山田 勝登

私は変わりますが、「素質は誰にも分からない」ということも指摘しなければなりません。最終それは神のみぞ知る世界なのです。もちろん我々は学習面で、この子が頑張れば5科目で〇〇〇点まではいけると、予想ができます。しかし、思わぬ予想外が結構あるのです。400点まではいけると思った子が450点を突き抜けるとか。(幸いにも逆はこれまでありません)

例えば、岐阜市民ならば誰でも知っているQちゃんこと高橋尚子さん。彼女は高校2年時にインターハイに出場します。しかし予選で敗退。また、47都道府県対抗女子駅伝にも出場します。ところが走った区間での成績は47人中なんとビリから3番目。こんな選手が後に、オリンピックの舞台上で世界の頂点に立つと誰が予想したでしょうか?誰もいなかったと思います。もちろん小出監督という名コーチの下で、過酷な練習を積んできました。

シドニー五輪の前にTVで高橋選手の特集を見ました。アメリカの空気の薄い高地で心肺機能を高めるべく練習に打ち込む師弟の姿がありました。「Qちゃんいいね!Qちゃんそれだ!」そして練習後、シューズを脱いだ高橋選手の足の裏をカメラは映しました。ひび割れ、ところどころから汁がジュクジュクと…我々の感覚ではとても走れる状態ではありません。それでも彼女は計画を粛々とこなしていたのです。私はシドニーのあのマラソンのレースを見ていて、途中でサングラスを投げてギアを一段上げにかかった時、「Qちゃんかっこいい!」と思いました。そして一度は引き離したシモン選手に最後は追い上げられながら逃げ切って、両手を上げてテープを切った瞬間、鳥肌が立ちました。これまでにない感動を覚えました。

大切なことは、生まれ持った素質をどれだけ出せるかということ。ご先祖から脈々と受け継いできた素質を。そして大人がやるべきことは、その環境を作ることだと思っています。小出監督は金沢の講演会でこう言いました。「指導者の仕事は、選手がどれだけ目をキラキラ輝かせることができるか?そして講演の後の「なぜ褒められるのが上手なのか?」という質問に対して「私は小さいころから親に褒められた記憶しかありません。だから自然とできるんじゃないですか」もって生まれた自分の素質の守備範囲を確実にこなすには大人のかかわり方が大きく影響するということです。よいところだけを見て、それを言ってあげる。それによって子供たちは委縮することなく、大人の目を気にすることなくのびのびと大きく育つことでしょう。前をしっかり見つめ、何事にも挑戦できる人となることでしょう。

「〇〇いいね!」「〇〇すごいぞ!」「〇〇もう少しだ!」「〇〇できたね!」「〇〇大丈夫!」「〇〇うれしい!」「〇〇ありがとう!」「〇〇大好き!」最後に、私は生徒に「自分の力を100%出したときに何点取れると思う?」という質問をします。そしてその答えた得点を生徒が超えた時、これまでに一人の例外なく発した言葉があります。それは

「**塾長、まだまだいける気がする!**」

あなたもきっと突き抜けることができる! 塾長 山田 勝登

# 学志舎

和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世はいいところだと思えるようになる  
守つてあげれば、子どもは、強い子に育つ  
やさしく、思いやりをもつて育てれば、子どもは、やさしい子に育つ  
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ  
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る  
分ち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ  
認めてあげれば、子どもは、頑張り屋になる  
見つけてあげれば、子どもは、自分が好きになる  
かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ  
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る  
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ  
やさしく、思いやりをもつて育てれば、子どもは、やさしい子に育つ  
守つてあげれば、子どもは、強い子に育つ



塾長 山田勝登

事務長 山田公子

岐阜市で25年の塾運営経験を活かし、  
お子さまのレベルに合わせたカリキュラムを組み立て、  
徹底した自律学習指導を行っています。

## 子は親の鏡

私の好きな言葉を皆様に送ります。

事務長 山田公子

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる  
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる  
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる

「かわいそうな子だ」と言っていて育てると、子どもはみじめな気持ちになる  
子どもを馬鹿にすると、引つ込みじあんな子になる

親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる  
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる  
広い心で接すれば、キレる子にはならない

誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ  
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる  
見つけてあげれば、子どもは、頑張り屋になる

分ち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ  
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る

子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ  
やさしく、思いやりをもつて育てれば、子どもは、やさしい子に育つ

守つてあげれば、子どもは、強い子に育つ



ドロシー・ロー・ノルト

## 自律学習の徹底

「言われたことはきちんとこなすが、自分で考えて行動を起こすことが出来ない子供が多い」と言われる昨今、学志舎は「学力」=「学ぶ力」すなわち「自分で考えて、学習できる力」と位置づけ、徹底した自律学習指導を行うことにより、自分で考えて行動できる子どもを数多く育てています。



勉強の習慣付けを徹底

### 小学部

中学・高校の6年間で花開く「基礎学力」を徹底して作るコース



朝6時オールナイト学習会終了

### 中学部

高校受験のための教科力と自律の養成を徹底して行うコース



合格おめでとう!

### 高校部

本格的な大学受験のための学力形成を徹底して行うコース

## 褒める教育の徹底

褒め上手な親の子は伸びる子供が多い、もしくは学力が高い生徒が多いというのは、25年の経験の中で間違いありません。学志舎は19年前に岐阜県では初めてコーチングを導入し、お子さまの存在を認め、良いところを褒めることを徹底して行うことで、お子さまを大きく伸ばしています。

詳細はHPを御覧ください



https://gakushisha.com/

学志舎

検索

〒500-8085 岐阜市白木町92番地  
【お問い合わせ】平日10:00～21:00

☎ 058-265-4562

【感染症対策実施中】